

第20回とさ・子ども主体の学校生活づくりを考える会（通称りぐる会）

テーマ ～豊かに生きよう～今を 明日を 将来を～ 報告

令和5年8月4日（金）に開催されました「第20回りぐる会」の報告をします。

- 1 出席者は25名で、内訳は特別支援学校10名、特別支援学級7名、教育研究所3名、市職員1名、弁護士1名、助言者・事務局合わせて3名でした。
 - 2 話題提供は、「遊び単元の進め方 実践を通して」と題して、高知市立一宮小学校教諭 谷 雄二 さんと 山本 香織 さん。牧野富太郎を題材にしたNHK朝ドラ「らんまん」。これをヒントに4月中旬から5月下旬まで単元「らんまんて遊ぼう」を展開。遊具の骨組み等は教師で作り、遊具や室内の装飾は、子どもたちと話したり、遊んだりしながら作り上げていきました。準備にエネルギーはいりますが、子どもたちは大喜びで、夢中になって遊びます。同校の他学年や近隣校も招待し、楽しく交流をしました。
 - 3 講話は明治学院大学准教授 高倉 誠一 さんから、「作業学習で大切にしたいこと」でした。「働く意欲を培う」作業学習は、「作業学習に関わる一連の活動を豊かにすること」。すなわち「やりがいと手応え」を高め、「本物の活動」をめざすことです。教師も生徒とともに豊かな時間を過ごしたい、とご示唆をいただき、深く共感しました。
 - 4 KUMIちゃん講座では、弁護士 中橋 紅美 さんから「虐待の原因 影響 弁護士のかかわり」についてお話をいただきました。8割もの親は子育ての不安を抱えている現状。「核家族による育児不安」「孤立化・情報過多」等により「身体的・心的・性的・ネグレクト」等虐待が起こることが多い。虐待により脳が委縮・変形することがあるが、適切なかかわりで治るとのこと。現在、児童相談所に弁護士が週1日駐在しており、本人や親、児相との相談及び調整役を担ってくださっているとのこと。
 - 5 「知的障害特別支援学級と生活単元学習」の書籍紹介がありました。本会のみなさんの協力により、本市の実践がたくさん掲載されています。感謝です。
 - 6 日本生活中心教育研究会「やまがた大会（9/17）」の案内とお誘いがありました。
 - 7 9波が言われたし、配慮しながらの「懇親会」でした。担任同士実践を語り合ったり、助言者を囲んで話し込んだり、飲んだり・・・心地よい交流、楽しい夜になりました。
- * 次回は、令和5年12月を予定しています。またお会いしましょう。 令和5年8月



りぐる会 八策

- 一 子ども主体
- 二 続ける
- 三 実践をベースに高め合う
- 四 柔軟な対応
- 五 仲間を増やす
- 六 あせらず じわじわと
- 七 功を求めず
- 八 本音で語ろう